



「南海岸サンベルトを中心とする 越境定期韓日協力の未来」

【鄭 在熙 (チョン・チェヒ)

(慶南発展研究院地域均衡発展研究センター長)】

きょう、このように貴重な両国間の国際会議に参加する機会をいただき、いろいろな面で勉強にもなりますし、普段日ごろ思っていた考え方を披露させていただく機会を与えていただけて光栄に思います。

1 つ感想を申し上げますと、昨日韓国から日本に着きまして、夜、韓国メンバーで意見交換の懇親会を行いました。両国間の国際交流も非常に重要ですが、韓国国内の友愛とお互いを感じ合う、非常に濃厚な時間を持ちました。国際交流を行う上でこのような経験できるのだなというふうに感じました。その点につきましては、御招待くださいました日本側に感謝を申し上げます。

これは余談ですが、韓国のことわざに、「はじめたら半分終わったようなものだ」というのがあります。

私がこれから申し上げますことは、「南海岸サンベルトを中心とした越境的韓日協力の未来」というタイトルにしました。大それたタイトルですが、内容は平易な内容になっております。

国交省から伺った内容では、事例を中心に話をしてほしいということだったのですが、地域研究をしてきていて、国際交流の重要性については実感しておりますが、これまでにはこれといって皆様に御紹介できる事例がまだないということで、ちょっと悩んでおりました。

慶尚南道のような場合には、福岡と釜山（プサン）の間に 4、5 年前から活発に交流を行ってきておりますが、具体的な成果は少なくなってきたのではないかと懸念が出てきており、現状について悩んでいるところでもあります。

結局交流、協力を行って、具体的な成果を出さなければお互いにとって WINWIN となる、何かに入れるものが得られないと、こういうことを続けていくことは難しいのではないかとということも考えております。

そういうことで、今考えるべきことは、総論的な部分で両国、両地域の間で協力と交流が重要だということについては認識を共有しているのですが、誰が何のために何処までこういう活動、取り組みを続けていくべきかある程度役割分担など、線引きをする必要があると思います。

これは大きなテーマで持ち帰りということにさせていただきたいと思いますが、福岡・釜山は非常にいい条件のもとにあるということは確実だと思います。

現在は微妙ですが非常に意味のある変化を見つめ、今後これを関係の発展のために、どういう点に重点を置くべきか、ということについて申し上げたいと思います。

1. 韓日交流の過去・現在

皆様御承知の内容なのですが、韓日の間の交流には非常に長い歴史的な事実がたくさん残っております。その流れの大方を見てみますと、過去には中国から韓国を経由して日本列島に流れてきていました。そのような歴史の中に、このような深い文化が実在していたということは間違いないことです。

文化交流も盛んでしたし、朝鮮戦争以降、3 つの段階を経て韓日の関係の変遷を整理することができるとは思います。まず 50 年代から 80 年代に至るまでは、日本文化というのは規制の対象でした。90 年代に入ってから状況が変わりますが、2000 年以降、韓国が日本で盛んになるにつれて非常に深い文化交流が現在進んでいるところでございます。

歴史をさかのぼっていきますと、三浦倭館という、今で言えば、ジャパントウンみたいなものが存在しておりました。そういう歴史の跡形というものも残っております。釜山（プサン）、鎮海（チネ）今の昌原（チャンオン）ですが、蔚山（ウル

サン) に設置されていました。韓日のお互いの異民族が葛藤の中でも協力活動を展開していた、そういう痕跡です。

それから今現在でも、慶尚南道地域には韓日におけるいろいろな歴史的な遺跡などが残っています。不幸な過去の中に残されている遺跡なども非常に意味のあるものだということで、新たに焦点を当てて、それを保存、発展させるような活動を展開しております。

慶尚南道、釜山(プサン)と日本との観光交流の課題についてはいろいろな方からお話がありましたので、割愛させていただきますが、全体的な見地からはこういう交流が行われているということです。

それから、経済の面ではまだ消極的な段階にとどまっている、ということです。行政面からはこういう現状の改善のために、例えば慶尚南道の場合には、日本と国際的な交流協力関係を持っています。

山口県をはじめ、九州地域と多様な交流活動を展開しております。それから韓日の知事会議と、東アジア会議などに日本と韓国が主要メンバーとして入っております。日本海を挟んだ韓日の間では、非常にこれは活発であり、釜山(プサン)地域では超広域経済圏を構成しております。

発展もありましたけれども、課題もたくさん抱えております。福岡と釜山(プサン)間で協力を拡大して、九州と東南圏との間に東南圏の発展といった次元でいろいろな努力をやっているところでもあります。

この絵は東南圏発展図を表したものです。御覧のとおり、慶尚南道と蔚山(ウルサン)など入っていますが、韓日海峡国際経済圏での協力を進めております。

それから御紹介させていただく重要な事例として、最近韓国の金海(キメ)にインターネットデータセンターというものをソフトバンクと韓国のKTでつくっております。

これは最近の行政中心の国際交流の域を出て、経済中心の模範的なモデルケースとなり得るいいケースと評価できると思います。

友達のことを韓国語で「チング」と言いますが、「トモダチ」という名前で、両国で国境を超えた企業化の信頼と共生を土台にして導き出した結論、成果です。

これは単純に、日本のソフトバンクのデータセンターを釜山(プサン)に移すことにとどまるのではなくて、それを拠点にして釜山(プサン)と九州の北部との間の海底の光ケーブルなどを活用して新たなビジネスシナジーをつくり出す計画を、ソフトバンクとKTの間で共有しているという点から、非常にこれは有意義な結果を今後打ち出せるのではないかと期待しております。

金海(キメ)インターネットデータセンターの成功を受けて、釜山(プサン)にもインターネットデータセンターを置く方向で検討、作業を進めております。

今後、ユビキタスなどの技術が発展すればするほどデータの量もふえますし、そういった分野の重要性がさらに増していくことになります。そういう点を踏まえてIT発展のためにも非常に重要な発展モデルになると思います。

それからもう1つ重要なことは、慶尚南道に南海(ナメ)郡というところがあります。昨日南海(ナメ)郡庁の人と同じホテルに泊まらせていただいたのですが、この地域に日本村をつくります。

日本生まれ、育ちの在日韓国人を対象に、それから韓国に居住している日本人を対象にして、日本文化をテーマとした村をつくり、日本から韓国に帰る在日韓国人などに住んでもらうことをコンセプトとしたプロジェクトです。

総合しますと、東南圏と九州地域との交流は非常に重要な課題であり、今後目指すべき方向でもあるのですが、これまでの国際化段階がまだ低い段階にとどまっているということがあります。

一方、最近意味のある変化が見出せるようになってきたということは、非常に好適な変化の証しだと思います。韓国で推進している超広域開発圏の役割というのは、対外海洋の拠点づくりという性格も合わせ持っております。

超広域開発圏がもつ連携、協力の面での大きな意義は全羅南道地域と釜山(プサン)中心の東部

地域、具体的には、国境を超えた南海岸と九州地域間との協力といった大きな柱があります。こういう2つのポイントをもとに、十分に集中的に取り組んでいくテーマだと思います。

今後を担っていく中心地域が南海岸に調整されることを期待しています。慶尚南道地域というのは非常に美しい景観と、優秀な産業基盤などを取りそろえております。

2. 今後の韓日交流推進の戦略

最後になりますが、このようなこれまでの経験に基づいて、今後どのようなことに取り組んでいかなければいけないかについて簡単に申し上げます。

まず国際交流の基本契機というものを韓日協力のもとで推進し、策定する必要があると思います。相手方に要求できること、それからしてあげられることを見出して、それを推進できる基盤をつくること、それから、既存の国際交流事業をさらに拡大発展させていくことです。

さらに、重要な国際拠点を構築することも大きなポイントになると思います。先ほど申し上げました、南海（ナメ）地域の日本村というの、小さいながらも韓日における重要な拠点の1つになり得ると思います。ITの面においても拠点の役割も担えると思います。

それからもう1つ、東南圏新空港を慶尚南道地域で推進していて、結局頓挫しておりますが、東南圏地域に国際空港ができれば、九州地域からも利用しやすい空港になると思います。

そういう面も考えて、関門ゲートウェイ都市の機能も期待できますし、産業、インフラ、交通、観光インフラの施設をつくることも大切だと思います。

それから実質的な投資の基盤をつくることも大事なことだと思います。九州地域の担当者の皆様方に、九州地域の企業が実際に韓国側に投資する際に、必要とされるニーズは何かということを教えていただきたいと思います。

さらに、投資促進実現のためのいろいろな情報交換などは必要になると思います。韓日間の技術

協力もさらに拡大、進化していく必要があると思いますし、民間がこのような事業に参加できる組織、仕組みをつくることも大事だと思います。

最後に、何よりも重要なことはお互いに対する理解、国際化に答えられる相互理解が非常に重要だと思います。

南海岸サンベルトを中心とする 越境的韓日協力の未来



2012. 1

チョン・チェヒ博士
慶南発展研究院

01 / 韓日交流の過去

韓日間文化交流の変遷

近代以前

__三国時代

- 貿易の過程を通じた文化交流と宗教的目的の巡礼が主種
- 韓日間文化交流は音楽、美術、建築、宗教等全分野にわたってなされた。

__高麗時代

- 周辺諸国との多国籍交流の試み及び文化的独創性に基盤を置いた世界水準の文化創出
- 貿易が文化交流の窓口の役割(開京の市廛、各地方の郷市等)

__朝鮮時代

- 小中華思想に基づいた中国中心の交流—知識人層中心
- 壬辰倭乱 [文禄・慶長の役] により日本との交流は沈滞期

過去の歴史の中に韓中日相互の文化交流の实在性存在

2 Page

01 / 韓日交流の過去

韓日間文化交流の変遷

__1950-1980年代

- 冷戦体制の中で経済交流に比べて文化交流は沈滞期を抜け出せなかった。
- 迂回的、陰性的文化交流進行(日本文化=倭色文化規制)

__1990年代

- 冷戦体制の終息とともに新たな東北アジア文化交流の胎動期
- 地理的隣接地域の近距離情緒的連帯開始
- 韓流の発生—衛星及びケーブルテレビ等交流媒体となるメディアの変化

__2000年以後

- 東北アジア文化交流に共同参加の増加—文化交流の活性期
- 東北アジア近代史を反省し相互共存を模索する動き
- サイバー空間の発達及び韓流の隆盛

3 Page

慶尚南道地域の韓日交流の歴史的痕跡

歴史的脈絡の中に形成されたジャパントウン：三浦倭館

- 三浦は朝鮮世宗の時代、倭人の往来を許可した三つの浦を指す。
- 1443年癸亥条約で三浦(釜山)、乃而浦(鎮海)、塩浦(蔚山)に日本人貿易、滞留許可
 - 浦ごとに倭館を設置して倭人に対する貿易を管轄
 - 倭人の往来は可能であったが常住は不可で、貿易・漁労行為が終われば帰国
 - 世宗の晩年、釜山浦に約350名、乃而浦に約1,500名、塩浦に約120名が常駐

三浦倭館の閉鎖

- 中宗即位後、社会浄化運動の一環として三浦に対する抑制政策に転換
- 1510年、三浦倭館の勃発及び倭人村の閉鎖

三浦倭館の歴史的価値

- 最初のジャパントウンとして韓日間異民族が互いに配慮と葛藤の中で三浦文化形成
- 倭寇消滅等国際交流を通じて平和維持

4 Page

慶尚南道地域の韓日交流の歴史的痕跡



慶尚南道地域に散在する近代文化遺産
のうち日本関連資料



5 Page

慶尚南道（釜山）地域と日本との観光交流の現状

日本人居住の現状

- 2007年現在、慶尚南道の日本人居住人口は840人
- 大部分の日本人はソウル市居住(全体17,163人中6,715人ソウル居住)

日本人観光客の現状

- 釜山を出入りする日本人観光客は2005年現在で約750,000人程度であり、そのうち30%程度が九州地域から訪ねてきた観光客と推計
- 慶尚南道を訪ねた有料外国人観光客は2006年現在で284,186人と推算
- 釜山チャガルチ・国際市場、金海伽倻文化等が代表的に好まれる観光資源

※日本訪問韓国人が最も好む観光は温泉とショッピング(JINTO, 2008)

韓国の慶尚南道+釜山地域と日本、九州地域間の観光プログラムは、

- ①交通統制や交通渋滞からの自由
- ②安い交通費用
- ③規模の経済による弾力的調整性
- ④船舶と旅客船の大きさの調整容易性
- ⑤観光プログラム運用の柔軟性等長所あり

→肯定的な観光市場として浮上

6 Page

慶尚南道(釜山)地域と日本との経済・行政交流の現状

慶尚南道の外国人投資誘致の現状

- 2005年以後2008年3月までの慶尚南道地域の外国人投資は282件、10億5百万ドル
- 全国実績と比較すると、投資額は2.79%、投資件数は2.52%を占める。

慶尚南道の国別投資誘致の現状

- 2005年から2008年3月までの慶尚南道地域の外国人投資は、EUが全体の49.7%の4.9億ドルで最も多く、日本1.8億ドル(17.6%)、ヴァージン諸島1.0億ドル(10.0%)の順

代表的日本投資企業としては
韓国東京電子(株)、韓国銅鉾(株)、韓国慶南太陽誘電等

慶尚南道の国際交流協力事業の現状

- 大部分が国際友好を増進させるための交流協力が主をなしており、日本の場合は福岡、山口等九州地域の県が姉妹提携、国際体育交流、水産・観光等協力事業を推進してきている。

7 Page

慶尚南道の東北アジア行政交流の現状

対象国	推進事業	該当国、対象機関	時期
中国	1. 国際体育交流	中国山東省	1993年
	2. 青少年国際交流	中国山東省	1993年
	3. 姉妹提携	中国山東省	1993年
	4. 友好交流(経済、産業、文化等)	中国遼寧省	2000年
	5. 友好交流(経済、産業、文化等)	中国黒龍江省	2008年
	6. 友好交流(経済、産業、文化等)	中国陝西省	2008年
	7. 生活体育国際交流	中国陝西省	2009年
ロシア	1. 青少年国際交流	ロシアハバロフスク州	1996年
	2. 姉妹提携	ロシアハバロフスク州	1996年
	3. 姉妹団体間観光交流	ロシアハバロフスク州	2001年
日本	1. 姉妹提携	日本山口県	1987年
	2. 国際体育交流	日本山口県	1987年
	3. 水産交流協力	日本4県(福岡、佐賀、長崎、山口)	1993年
	4. 観光分野交流	日本4県(福岡、佐賀、長崎、山口)	1995年
	5. 生活体育国際交流	日本香川県	2004年
	6. 友好交流(経済、産業、文化等)	日本北海道	2006年

8 Page

慶尚南道が参加する韓日間国際交流会議

韓日海峡圏知事会議

- 慶尚南道をはじめとする韓国南部圏2市、3道、日本北部九州3県の協力で1992年開始
- 青少年、文化及びスポーツ、環境技術、その他ビジネス等で多様な協力プロジェクト進行

東アジア都市会議

- 都市間交流レベルで韓中日3ヶ国10都市が参加(1991年開始)
- 経済的交流に重点を置いて企業経営者会議も開催している。

韓日(九州)経済交流会議

- 韓国と九州双方の中小企業が保有する資本、技術、人材等の経営資源の相互補完
- 貿易投資及び産業技術の交流拡大と地域間交流の促進(1993年開始)

環黄海経済技術交流会議

- 日本の経済産業省、韓国の知識経済省(産業資源省)、中国の商務省、科学技術省参加
- 3ヶ国政府及び関係自治体、経済団体、企業、研究者会議
- 貿易投資、技術、人材等の相互協力及び具体的なビジネス発掘

9 Page

韓日海峡圏地域の最近の変化

釜山-福岡超広域経済圏の構築

- 日本の九州地域と国境を超越する協力共同体を構築して東南圏経済を強化するという政府事業に歩調を合わせて、両地域間の蓄積された交流協力と相互信頼を土台に、共同利益創出のため、超広域経済圏の構築を推進している。
- 東南圏(釜山)-九州圏(福岡)経済協力会議体の構成
-20名前後(両市10名：市、経済団体、研究機関等専門家)
- 釜山-福岡超広域経済圏形成のための共同研究
- アジアゲートウェー2011
-釜山-福岡を一つの圏域と認識する広域観光交流圏の形成
-ロゴ、キャッチフレーズ制作、共同記者会見(福岡市)、ガイドブック及びポスター等制作
-祭り・パレード相互参加、釜山-福岡観光商品開発、マスコミ等ファンツアー、観光説明会開催
-上海エキスポ('11)共同参加、共同事業予算(4年間16億ウォン、都市別：1年2億分担)
- 2009交流20周年記念事業

10 Page

韓日海峡圏地域の最近の変化

東南圏-九州圏国際協力の推進

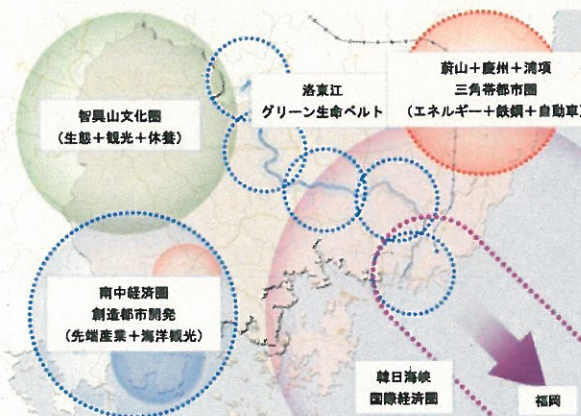
- 一般的に経済協力の段階が商品交易、投資、人的訪問等の初期段階を過ぎて、部分的労働移動の許容、居住と就業の自由、そして知的財産の共同開発と共有の段階に進むと見るならば、釜山と福岡間の交流はまだ初期段階に留まっている。
- これを克服するための方策の一つとして、東南広域経済圏⇄九州を中心に韓日海峡を超越する超広域国際交流圏構築を推進
- 個別機関の間または個別自治体別国際交流を超えて、広域的観点から基礎自治体が連合して国際交流圏を形成して、共同の国際交流事業推進計画

釜山-福岡超広域協力の成果によって、最近韓国側では釜蔚慶東南圏レベルで九州圏に対する国際協力の新たなアプローチが強化されている。

- 東南圏と九州圏で超国境事業推進のための韓日経済人交流会創設
- 相互のビジネス活性化及び技術協力増進のためのMOU締結等、次第に活性化傾向

11 Page

韓日海峡圏地域の最近の変化



12 Page

韓日海峡圏地域の最近の変化

ソフトバンク-KT企業協力(データセンター)：実質的経済協力の共生事例

- 韓国のKTと日本のソフトバンクが協力した金海グローバルデータセンター1次完工
- データセンターの竣工とともにKTとソフトバンクが共同運営中である釜山-北九州海底光ケーブルを中心に、日本側企業に対するサービス開始予定
- 日本側は東日本大震災以降、安全なデータセンター確保要求が高まっており、韓国側はグローバルデータセンターを東アジアITハブに育てていくという目標を共有
- 「トモダチ」という名の下、国境を超越した両企業間の信頼と共生を土台に出てきた結果

13 Page

韓日海峡圏地域の最近の変化

慶尚南道南海郡日本村づくりの推進

- 在日同胞の故国定着と健康な生活を営むことができるように、海外在住韓国人の好みに合う住居・滞在空間づくり
- 全世界に広がっている韓流ブームとドイツ、米家村等の成功を活かして、近くて遠い国である日本の文化を組み合わせる国際的な観光インフラを構築
- 日本風伝統建築様式を通じた特色ある観光資源を確保

主な事業内容

- 日本住宅：日本風伝統建築様式づくり
- 日本文化体験：日本文化体験館、日本飲食館(伝統茶、伝統料理等)、宿泊体験館(着物、露天風呂等)、日本語アカデミー
- 日本広場：文化広場、六本木広場、日本式造形
- その他の施設：観光広報館、韓流スター館、備前記念館(MK記念館)、日本代表建築物のミニチュア等
- 基盤施設：道路、駐車場、上下水道施設、緑地空間等

14 Page

韓日海峡圏地域国際協力の診断と課題

韓日間交流協力の拡大と限界

- 日本人または中国人等日常生活を営む多数の外国人の最近の韓日海峡圏における財貨や人的交流はそうとう拡大している。
- しかし、まだ企業間協力と提携は相変らず制限的であり、地方自治体等が主管する多様なイベントや文化交流プログラムが緊密な企業間協力を促進し尽くせずにいる。
- 支店経済の特性と海峡圏両地域の企業相互の関心と必要事項の不一致によって、現在の企業間連携は活発ではないが、今後の海峡圏内企業間の協力の可能性は充分あるということができる。



首都圏に比べて低い国際化段階、単純な地方自治体間行政交流の限界を克服するための文化・経済等多様な分野のレベルの高い協力政策が必要

15 Page

超広域開発圏の役割

- グローバル競争力を備えた対外開放拠点地帯
- 1 東北アジアの中心に位置して環太平洋とユーラシアの関門の役割を果たすことのできる韓国在地経学的長所を最大限活かして、グローバル競争力を備えた対外開放拠点地帯を育成
 - 2 新たな成長軸
首都圏に偏重した国土構造を克服するための新たな成長軸を構築
 - 3 融和と共生発展の実践的開発圏
東西間、南北間の長い間の排他的地域矛盾を統合的協力関係を通じて克服することによって、融和と共生発展の軸になる実践的開発圏を形成

16 Page

超広域開発圏の連携・協力

A 広域圏+広域圏連携



内部連携

- ・広域経済圏間相互連携
- ・隣接した広域経済圏の連携協力と共生発展

B 越境的連携(南海岸圏+九州圏)



外部連携

- ・国内超広域圏と日本、中国の広域経済圏間の連携協力
- ・行政、文化、観光、産業交流の増進を通じた越境的協力

17 Page

超広域開発連携協力の今後の方向

内部
連携

地方自治体の行政リーダーシップの強化
地域社会構成員間の水平的連携協力活動の強化
相互の積極的な学習と努力

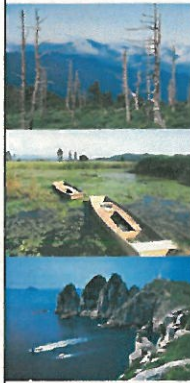
外部
連携

経済、社会、文化等諸分野の国際交流の拡大
交流協力拠点の競争力強化
国家レベルの政策支援促進

グローバル時代に対応する国家競争力向上と
地域共生をリードする超広域成長地帯づくり

18 Page

慶尚南道地域の条件と強み



- | | | |
|---|------------------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・智異山・徳裕山等国立公園ベルト ・島と沿岸の美しい景観 ・ラムサール湿地・洛東江 | <p>優れた環境価値 +</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・最高水準の造船、機械産業ベルト ・優秀な産業基盤 ・航空、ロボット等先端産業基盤 ・2ヶ所のFEZ・国家拠点港湾 |
|---|------------------|--|

19 Page

慶尚南道地域の南海岸線サンベルト主要開発事業



1. 国際交流協力事業の推進

「南海岸圏国際交流基本計画」の策定

- ・具体的な交流の原則・交流の候補地域・受け入れ可能な圏域共同交流事業
- ・国際交流施策推進体制の整備策・国際交流に対応する人材育成策
- ・国際交流関連物的基盤施設の整備策・主要領域別(貿易、投資、技術、文化等)交流促進策・国際交流にともなう予想問題に対する対処策

「国際交流協力事業」の拡大

- ・交流候補地域は中国の上海圏と日本の九州地域を優先的に設定
- ・交流協力内容は韓中日間の伝統文化に関連する国際交流及び海洋文化に関連する交流に焦点
- ・経済交流もやはり南海岸圏の産業基盤と相互補完協力関係を維持できる方向で推進

21 Page

2. 国際交流拠点開発事業の推進

- 国際交流関連施設の設置、国際交流・協力機能を保有する都市整備等国際交流拠点の育成
- 南海岸圏と日本、九州圏を国境を超越する超広域国際交流圏の国際交流の場として活用
 - └ 国際交流関門都市の建設
- 港湾・空港等国際関門を中心に中核的な国際交流拠点機能を保有する関門都市づくり
- 国際交流研究センター、コンベンションセンター、展示場、ホテル等国際交流支援施設を集中配置
 - └ 国際観光自由地帯づくり
- 外国人の活動が自由な21世紀型国際観光自由地帯をつくらせて南海岸の国際観光最大化
 - └ 国際文化体験空間の確保
- 歴史、衣食住等外国文化を体験することのできる関連施設の確保

22 Page

3. 経済交流強化事業の推進

- └ 韓日間投資交流の拡大
 - 日本との国際的水平分業形態で九州地域の海外生産機能の一部を南海岸圏が受け容れることのできる戦略を講じる。
 - 慶尚南道地域の強みを活かした機械部品・造船・ロボット等を中心に、日本企業専用工業団地の造成及び日本企業の誘致
- └ 韓日間技術交流の拡大
 - 南海岸圏の相互連携可能な産業を発掘して国際間分業等を実施する方策の検討・推進
 - 産業技術交流の派遣・産業技術仲介斡旋事業の実施・農水産技術移転の提携
 - 研究人材、施設、研究課題のデータベース化及び新技術分野の共同研究

23 Page

4. 国際交流推進体制の整備

- └ 南海岸圏国際交流推進委員会の設置
 - 南海岸圏市・郡国際交流推進委員会を設置して、国際交流に関連する諸事項の議論及び共同国際交流事業の発掘及び推進業務を担当するようにする。
- └ 行政・民間部門における推進体制の整備
 - 国際交流担当部署の独立及び職員の補強、教育強化
 - 民間国際交流協力団体間のネットワーク構築の促進
 - 慶尚南道、市郡、民間の間の国際交流連帯会議の設置
- └ 南海岸圏国際交流センターの設置
 - 南海岸サンベルト超広域開発圏形成のための国際交流協力関連支援機関に慶南海岸圏国際交流センター設置
- └ 国際交流機関との協力体制の構築
 - 大韓貿易投資振興公社(KOTRA)、地方自治体国際化財団等との連携体制の構築
 - 九州地域にある多様な国際交流機関との連帯事業の強化

24 Page

5. 国際交流人材の養成

国際化に沿う交流主体の育成

国際化に対応した教育の推進

- 日本語、中国語等外国語教育の推進・外国語指導教師及び教授の活用
- アジアを中心にした外国修学旅行の推進・環境問題等地球的な課題に対する理解教育の充実
- 海外留学への支援

国際交流・協力指導者の育成

- 韓-日、韓-中間国際交流指導者の育成・韓-日、韓-中間民間団体交流支援事業
- 青少年・女性指導者の海外派遣

居住外国人支援政策の強化

住民の国際化

- 国際交流活動に関連するボランティアメンバーの育成・在韓外国人に対する理解と配慮の精神の培養

外国人も楽しく暮らせる地域づくり

- 案内板、公共交通機関、公共施設に外国語(英語・中国語・日本語等)の表記
- 外国人に対する行政サービスの向上